児玉康兵

高 15 期
彫刻家
尾道市立大学名誉教授

光陰矢の如し、昭和39年(1964年)登美丘高校に入学した。57年前に東京オリンピックが開催された年で、一般家庭に白黒テレビが普及し、新幹線がそれに合わせて東京大阪間を走りだした年である。東京オリンピックの記録映画が市川崑監督により製作され、単なる競技の記録では無く「人間とは何か」と言う哲学がその根底にあり感動した。私は直ぐさま映画研究部に入部、8ミリ撮影機を使い体育祭を撮影し、市川崑監督の様に私の感性をそこに込め制作した。文化祭で発表したものの、良かったと言ってくれる者がいなかった。自分の感性を生かした独自の道を目指そうと、京都市立美術大学に的を絞り進学を目指す事にした。春休み夏休みには大阪市内の美術系予備校、学科予備校に通い.又.高校では一人で美術教室で石膏デッサン、鉛筆デッサンに励んだ。美術系予備校では常にトップクラスにいた。我々の世代は、戦後のベッビーブーム(団塊世代)世代で大学受験も大変であった。京都美大は、定員125人の所へ2千人を超える応募者があり、激戦であった。無事現役で合格出来た事は、暖かく見守って下さった登美丘の先生方のお陰であり、温厚な校風に感謝しています。現在も創作活動を行っています。創立 100 周年記念碑「無限空環」レプリカを寄贈いたしました。ぜひご覧ください。

登美丘高校の皆さん「夢と希望」をもち、オンリーワンの世界を目指し日々励んでください。

最後に、登美丘高校のルーツ、黒山高等実践女学校の菊水の校章です。鎌倉時代末期の武将、楠木正成が後醍醐天皇(南朝)から賜った菊水の家紋は、黒山実践女学校に引き継がれ日本の学校史上他に例を見ないと思われます。

■プロフィール

1949 年　(昭和 24 年)1月 28 日　尾道市生まれ
1967 年　大阪府立登美丘高校卒業(高 15 期)
1971 年　京都市立芸術大学美術学部彫刻科卒業(入学時京都市立美術大学)
1973～79 年　(株)浦辺建築事務所勤務、建築設計、都市計画を学ぶ
1979～81 年　イタリア国立ミラノ美術学院に留学、ヨーロッパの歴史的都市及び都市環境彫刻を研究
1981 年　K&F 環境造形研究所設立、85 年児玉環境造形研究所に改名主催～現在(高槻に設計室、工房設立)
～07 年　公的モニュメント設置、武庫川女子大学、京都造形芸大、大阪デザイン専門学校等非常勤講師
2001～07 年　尾道市立大学美術学科非常勤講師(彫刻、デザイン)
2008～14 年　尾道市立大学美術学科教授、(2020 年まで勤務)、尾道市立大学名誉教授
主な受賞歴/厳島神社世界文化遺産記念碑、高槻市民憲章記念碑、豊中市制 50 周年記念碑、倉敷まちかど角彫刻展
横浜彫刻ビエンナーレ、神戸須磨離宮公園現代彫刻展。宇部現代日本彫刻展、知多市市制 20 周年記念碑、他多数
大学設置作品/大阪大学、大阪府立大学、姫路獨協大学、広島女学院大学、尾道市立大学
パブリックアート・環境造形/大阪府島本町、吹田市、豊中市、大阪市、高槻市(多数)、住宅都市整備公団(多数)
和泉市、西宮市、岩手県岩手町、東京都、横浜市、島根県、島根県八束町、米子市、尾道市、(その他多数)